

新年明けましておめでとうございます。市民の皆さんにおかれましては、平成28年の輝かしい新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

さて、荒尾市の一年を振り返ってみますと、平成27年は飛躍に向けて走り出した年だったと感じています。

万田坑を含む「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の世界遺産登録や、海フェスタくまもとでの秋篠宮同妃両殿下の小代焼窯元と荒尾干潟の御視察と、荒尾市の素晴らしさを全国に発信してきました。

また、有明海沿岸道路の中心杭打ち式が競馬場跡地で開催され、整備に弾みがつきました。県内最大規模の太陽光発電所の稼働、バイオマス発電所の立地協定の締結、一般社団法人九州荒尾オーリーブ村の発足、荒尾梨の地域団体商標登録や漁協による直売所の開設などは、私が念願とする『稼げる荒尾』への重要な一歩となりました。

ことしは、市民病院の建て替えを加速させ、平成31年度には「市民の健康を守る砦」として開院できるよう、関係者一丸となつてまい進していきます。

また、ありあけネットコムによるコミュニ

ニティFMがスタートします。市民の皆さんにタイムリーな行政情報をお伝えし、荒尾市のPRも行っていきます。

地域おこし協力隊事業も始動します。大都市圏に住んでいた経験とそれぞれの技能を生かし、荒尾市のシティブロモーションなどで活躍していただきます。万田坑の世界遺産登録1周年や海達公子生誕百年を記念する事業も行う予定です。

さらに、庁舎トイレの改修やエレベーターの設置など、市民の皆さんが使いやすいよう、公共施設のバリアフリー化を進めます。

荒尾干潟のビジターセンターの実施設計、荒尾競馬場跡地の土地区画整理事業など地域活性化に向けたプロジェクトを着実に進め、学童保育の全小学校区での実施、子ども医療費助成の拡充などの子育て支援や、高齢者の健康増進など市民生活の向上に努めます。そして、市民の幸福量の最大化を目指す『日本有数の魅力あふれるまち荒尾』の実現に向け、市政を進めてまいります。

ことしは申年です。皆さんにとって良くないことを「去る」幸多き年になりますよう祈念して、新年の挨拶といたします。

荒尾市長 山下慶一郎



荒尾市長 山下慶一郎

新年明けましておめでとうございます。市民の皆さんにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。また、日頃から市議会の運営に対し、ご理解とご御協力をいただき、ありがとうございます。

ラムサール条約登録湿地の荒尾干潟に続き、昨年は、万田坑が世界遺産に登録され、世界に誇る宝がまた一つ増えました。また、荒尾競馬場跡に有明海沿岸道路三池港ICの連絡路整備が着手されるなど、将来のまちづくりのための明るい話題もあり、本市の交流人口拡大に大いに期待しているところです。

我が国で人口減少と超高齢化が進行し、国では「まち・ひと・しごと創生法」が公布され、市町村では「地方人口ビジョン」と地域の特性を生かした「地方版総合戦略」の策定が求められました。昨年、本市でもこれからの時代を見据えた新・第5次荒尾市総合計画を策定しました。「地方創生」への取り組みを進める中で、二元代表制の下、議会もしっかりと役割を果たしていきます。

市議会では、平成25年に議会活性化推進特別委員会を設置し、議会活性化に取り組んでまいりました。昨年は、夜間議会の開

催や、議員全員で予算や決算といった財務についてより深く細やかな審査ができるように「財務常任委員会」の設置を行いました。また、昨年12月の試験配信を経て、市民の皆さんから要望の強かった本会議のインターネット配信が、本年から本格的に視聴できるようになります。

昨年4月の統一地方選挙で、定数を4人削減し、18人になりました。しかし、18人それぞれが地域の課題を市民の皆さんと共有し、解決に向かって施策を検討していきます。

本年も市民の皆さんが、健康で安心して暮らし続けることができるまちづくりに尽力してまいります。どうか市議会の活動に対し、ご理解をいただきますようお願いいたします。

荒尾市議会議長 小田龍雄



荒尾市議会議長 小田龍雄